

凡 例

一、本書は、田島利三郎筆写「おもろさうし」（琉球大学附属図書館伊波普猷文庫所収）の記載内容を忠実に翻刻することを旨としたものである。そのため、原資料における誤字、誤謬とみられるものもそのままにしてある。

二、翻刻に際しては、できるだけ原資料の体裁を留めるよう努めたが、編集および印刷の都合上以下の変更を加えた。

1、田島本は一頁あたりほぼ本文十行十二行であるが、紙面の都合により空白部分を詰めた。

2、旧漢字は原則として当用漢字に改めた。

3、変体仮名は原則として現行の平仮名に改めたが、原資料の文字の形を示す必要があると判断した部分については適宜変体仮名を使用した。

4、合字のうち慣用的なもの（べししめ、しして、しこと、しとき など）はそのまま用いたが、そのほかは現行の仮名に改めた。

三、明らかに朱筆による書き込みとみられる文字・傍点は書体を変えて示した。

例（巻十一 37） 54 ① ^{ちや}いたきよらは、②
③

①朱筆 ②墨筆 ③朱筆の傍点または区切り点

なお、茶色に見える書き込みについては、朱が変色した可能性があるが、現在のところ確証がないので書体を変えるなどの処理はしていない。

四、別筆（鉛筆、ペンなど）による書き込み、及び田島とは筆跡の異なる文字・傍点等についても書体を変えて示した。

例（巻十一 20） ^{*あぶる}あおる、②や、③

①別筆 ②墨筆 ③別筆の傍点または区切り点

五、抹消および訂正箇所については原則として原本の形で示すこととした。

1、抹消された部分の内容がわかるもの（見せ消ち）は左の例のように示した。

例 ~~ぬめ~~しよわちへ なげくな ^ぢやかよ みおやたいりの

2、抹消された部分の内容が判然としないものは「●」で示した。

例 あか●いに、(正しくは「あかるいに」) おい●みき(正しくは「おいみき」)

六、判読しがたい場合は、字数分を「□」とした。字数の不明なものについては、「」とした。

例 七十人^アに□□

く^カー